

# 神戸市中央卸売市場の取扱高の推移について

## 1. 卸売市場を取り巻く環境

近年、消費者ニーズの多様化や少子高齢化に伴う消費人口の減少、生鮮食料品における流通構造の変化など、卸売市場を取り巻く環境は厳しい状況が続いている。加えて、一昨年から続く新型コロナウイルス感染症の動向やウクライナ情勢など、市場を取り巻く社会情勢の先行きも読みにくい状況となっている。また、働き方改革関連法として2024年4月から自動車運転業務（トラックドライバーなど）においても時間外労働の上限規制が適用され物流の効率化が必至であり、さらにDXへの対応やHACCPに基づく衛生管理等への対応など、産地や実需者などから選ばれる市場として、引き続き生鮮食品の安定供給を担うインフラとして役割を果たしていけるように市場内関係者が連携して、課題に取り組んでいく必要がある。

## 2. 令和3年（暦年）神戸市場（本場・東部市場）における青果及び水産物の取扱い状況

令和3年総取扱高は、取扱数量で165,187トン（前年比95.0%）、取扱金額で73,100百万円（同比97.1%）

ア 市場別実績では、本場、取扱数量126,362トン（前年比95.2%）、取扱金額58,046百万円（同比98.5%）、東部市場、取扱数量38,825トン（同比94.4%）、取扱金額15,053百万円（同比92.1%）であった。

イ 卸売部門別では、青果部、取扱数量で129,929トン（前年比93.6%）、取扱金額では35,115百万円（同比91.6%）。水産物部、取扱数量で35,258トン（同比100.7%）、取扱金額では37,985百万円（同比102.8%）であった。

【取扱数量・金額】

		令和3年		令和2年		令和元年・平成31年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
本場	青果	98,775 <sup>トン</sup>	26,560 <sup>百万円</sup>	105,552 <sup>トン</sup>	28,585 <sup>百万円</sup>	113,067 <sup>トン</sup>	28,410 <sup>百万円</sup>
	対前年比	93.6%	92.9%	93.4%	100.6%	90.0%	88.5%
	水産	27,587 <sup>トン</sup>	31,487 <sup>百万円</sup>	27,149 <sup>トン</sup>	30,347 <sup>百万円</sup>	30,497 <sup>トン</sup>	35,156 <sup>百万円</sup>
	対前年比	101.6%	103.8%	89.0%	86.3%	95.2%	96.1%
	計	126,362 <sup>トン</sup>	58,046 <sup>百万円</sup>	132,701 <sup>トン</sup>	58,932 <sup>百万円</sup>	143,563 <sup>トン</sup>	63,566 <sup>百万円</sup>
対前年比	95.2%	98.5%	92.4%	92.7%	91.1%	92.6%	

東部市場	青果	31,154 <sup>トン</sup>	8,555 <sup>百万円</sup>	33,250 <sup>トン</sup>	9,751 <sup>百万円</sup>	33,506 <sup>トン</sup>	9,711 <sup>百万円</sup>
	対前年比	93.7%	87.7%	99.2%	100.4%	104.9%	98.1%
	水産	7,671 <sup>トン</sup>	6,498 <sup>百万円</sup>	7,864 <sup>トン</sup>	6,600 <sup>百万円</sup>	8,105 <sup>トン</sup>	7,531 <sup>百万円</sup>
	対前年比	97.5%	98.5%	97.0%	87.6%	99.4%	94.4%
	計	38,825 <sup>トン</sup>	15,053 <sup>百万円</sup>	41,114 <sup>トン</sup>	16,351 <sup>百万円</sup>	41,611 <sup>トン</sup>	17,242 <sup>百万円</sup>
対前年比	94.4%	92.1%	98.8%	94.8%	103.8%	96.5%	

部門別計	青果	129,929 <sup>トン</sup>	35,115 <sup>百万円</sup>	138,802 <sup>トン</sup>	38,336 <sup>百万円</sup>	146,572 <sup>トン</sup>	38,120 <sup>百万円</sup>
	対前年比	93.6%	91.6%	94.7%	100.6%	93.0%	90.8%
	水産	35,258 <sup>トン</sup>	37,985 <sup>百万円</sup>	35,013 <sup>トン</sup>	36,947 <sup>百万円</sup>	38,601 <sup>トン</sup>	42,688 <sup>百万円</sup>
	対前年比	100.7%	102.8%	90.7%	86.6%	96.1%	95.8%
	計	165,187 <sup>トン</sup>	73,100 <sup>百万円</sup>	173,815 <sup>トン</sup>	75,283 <sup>百万円</sup>	185,174 <sup>トン</sup>	80,808 <sup>百万円</sup>
対前年比	95.0%	97.1%	93.9%	93.2%	93.6%	93.4%	

※統計については項目別四捨五入のため、合計と明細で端数が一致しないことがある。

### 3. 令和3年（暦年）東部市場における花きの取扱い状況

花き部では、令和3年の取扱数量で41,231千本（前年比102.7%）、取扱金額では2,988百万円（同比109.5%）であった。

		令和3年		令和2年		令和元年・平成31年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
東部市場	花き	41,231千本 <sup>ホ</sup>	2,988百万円	40,158千本 <sup>ホ</sup>	2,728百万円	44,556千本 <sup>ホ</sup>	2,995百万円
	対前年比	102.7%	109.5%	90.1%	91.1%	97.6%	97.3%

### 4. 令和3年（暦年）西部市場における食肉の取扱い状況

令和3年総取扱高は、頭数が26,563頭（前年比105.6%）、重量は6,412ト（前年比105.3%）、金額では15,155百万円（前年比111.9%）といずれも増加している。

#### ア 牛枝肉

頭数は11,023頭（前年比102.3%）、重量は4,915ト（前年比103.2%）、金額では13,928百万円（前年比111.6%）といずれも増加している。

#### イ 豚枝肉

頭数は15,540頭（前年比108.0%）、重量は1,314ト（前年比109.4%）、金額では694百万円（前年比104.8%）といずれも増加している。

#### ウ 部分肉等

重量は182ト（前年比148.0%）、金額では532百万円（前年比134.0%）といずれも増加している。

#### 【取扱数量・金額】

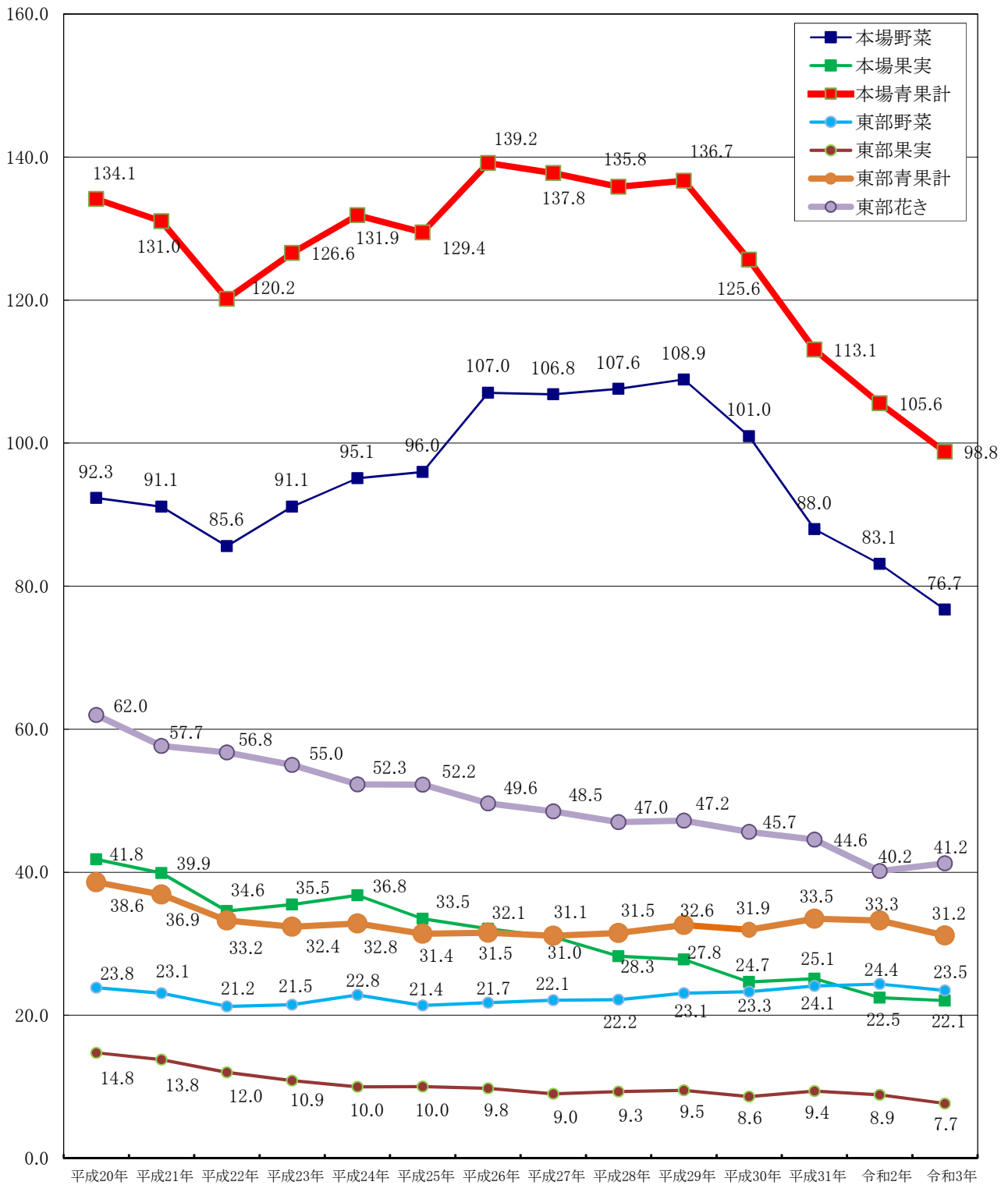
		令和3年		令和2年		令和元年・平成31年	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
西部市場	牛	4,915ト <sup>ト</sup> (11,023頭)	13,928百万円	4,763ト <sup>ト</sup> (10,771頭)	12,478百万円	4,563ト <sup>ト</sup> (10,482頭)	13,376百万円
	対前年比	103.2% (102.3%)	111.6%	104.4% (102.8%)	93.3%	95.8% (95.3%)	89.4%
	豚	1,314ト <sup>ト</sup> (15,540頭)	694百万円	1,201ト <sup>ト</sup> (14,388頭)	662百万円	1,121ト <sup>ト</sup> (13,497頭)	605百万円
	対前年比	109.4% (108.0%)	104.8%	107.1% (106.6%)	109.4%	100.8% (101.0%)	106.3%
	部分肉等	182ト <sup>ト</sup>	532百万円	123ト <sup>ト</sup>	397百万円	60ト <sup>ト</sup>	387百万円
	対前年比	148.0%	134.0%	205.5%	102.6%	139.5%	107.5%
	計	6,412ト <sup>ト</sup> (26,563頭)	15,155百万円	6,087ト <sup>ト</sup> (25,159頭)	13,538百万円	5,744ト <sup>ト</sup> (23,979頭)	14,368百万円
	対前年比	105.3% (105.6%)	111.9%	106.0% (104.9%)	94.2%	97.1% (98.4%)	90.5%

※統計については項目別四捨五入のため、合計と明細で端数が一致しないことがある。

# 青果・花き 取扱数量（暦年）

（本場+東部市場）

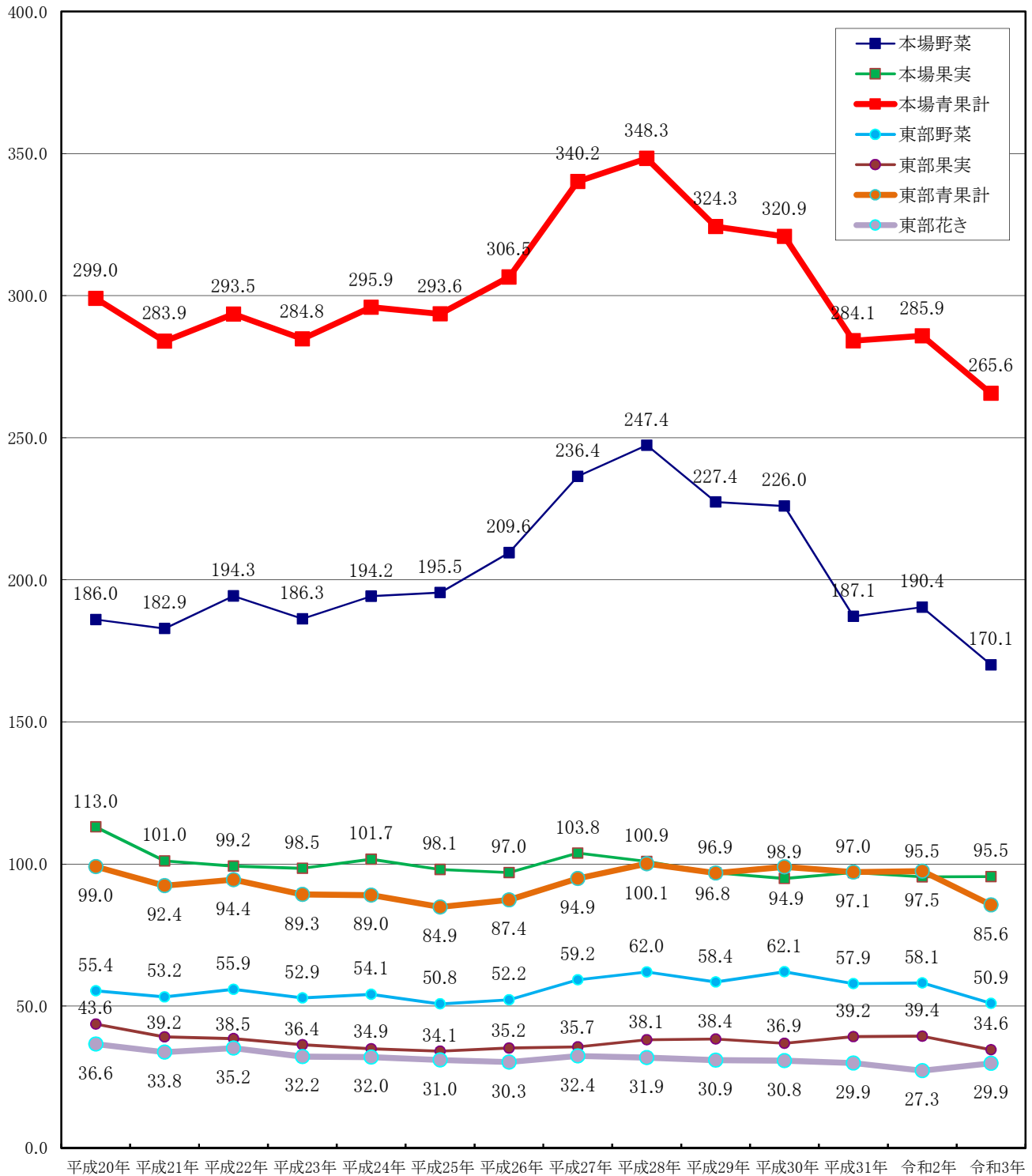
取扱数量  
単位：千トン  
花き：百万本



# 青果・花き 取扱金額（暦年）

（本場+東部市場）

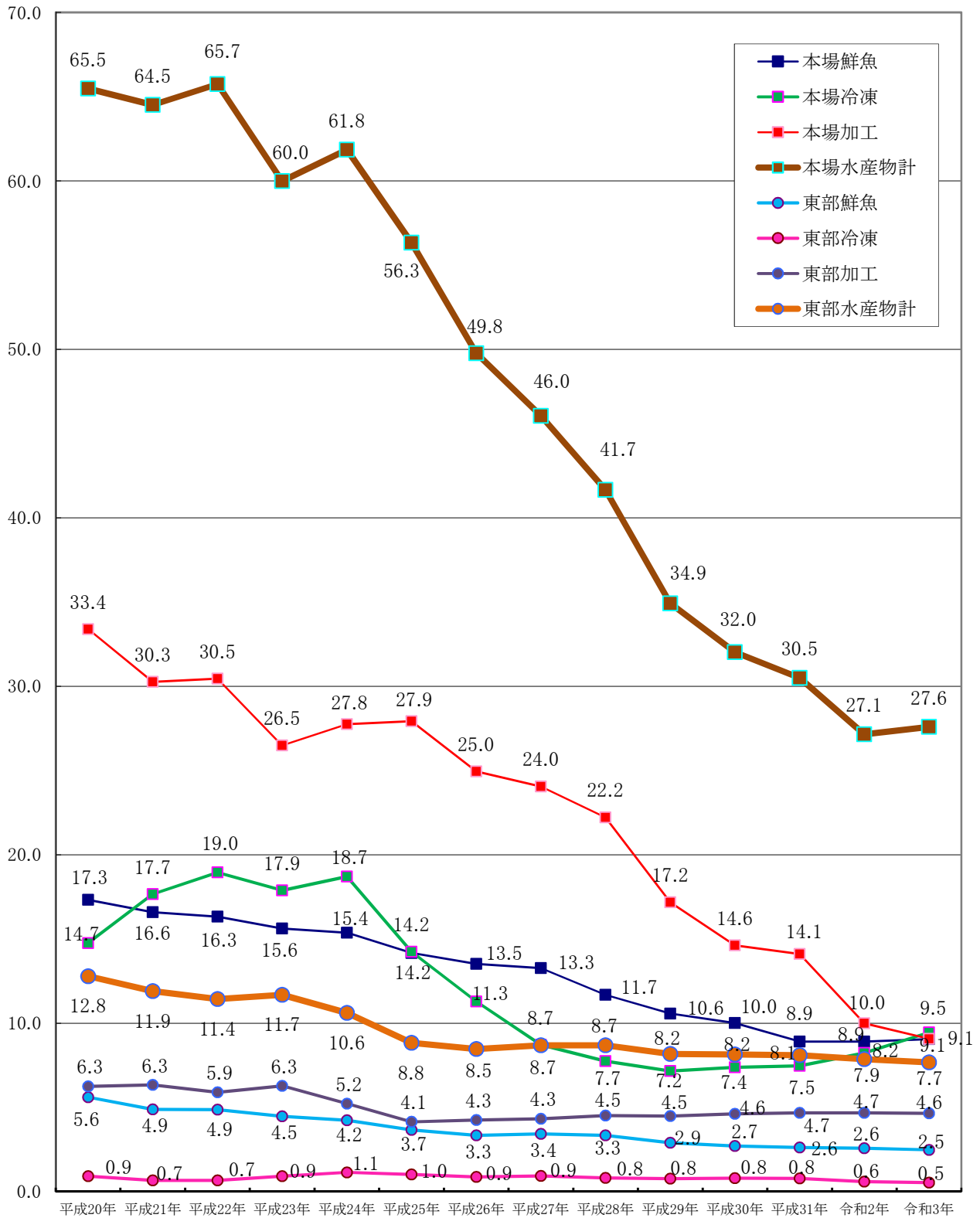
取扱金額  
（単位：億円）



# 水産物 取扱数量 (暦年)

(本場+東部市場)

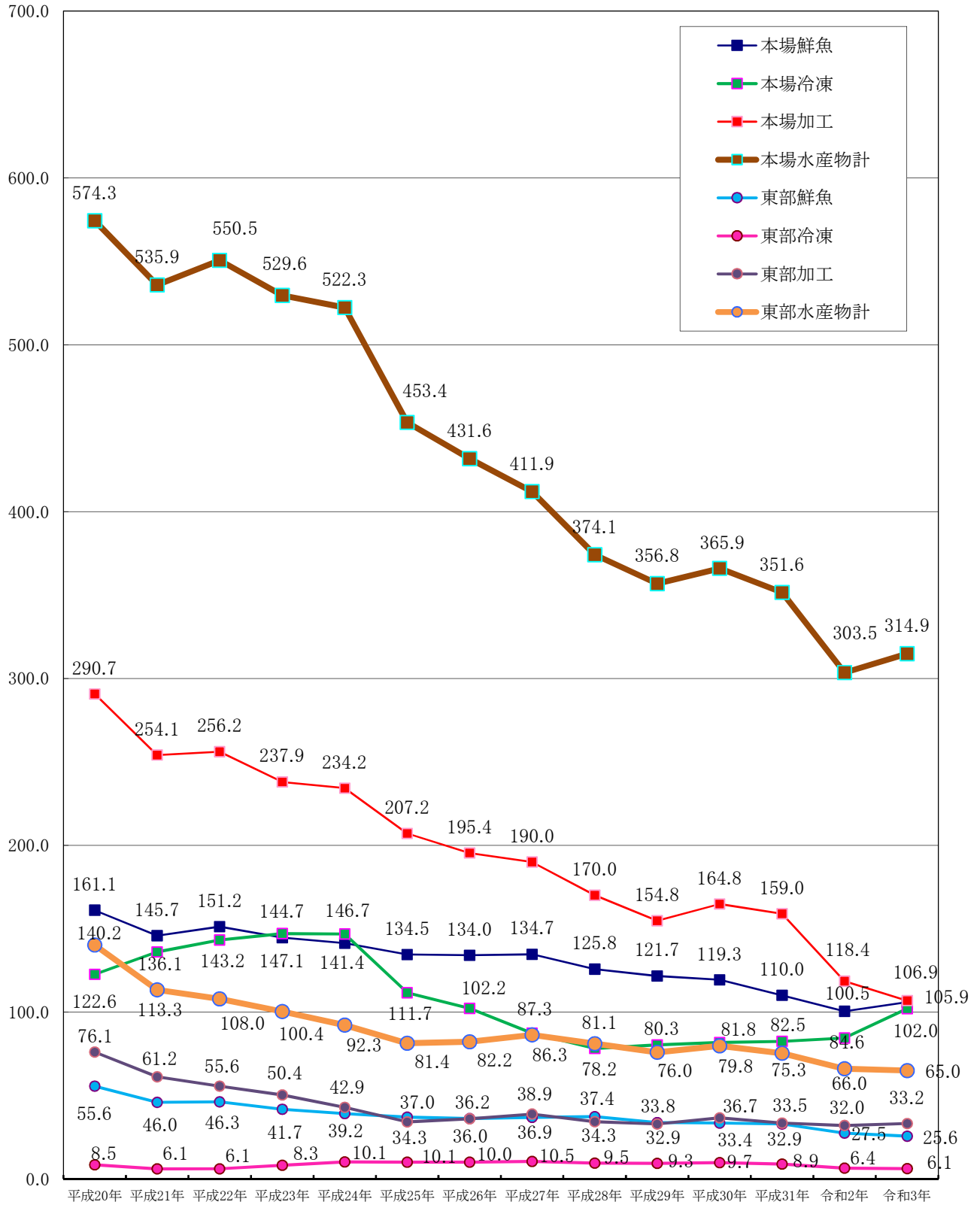
取扱数量  
(単位:千トン)

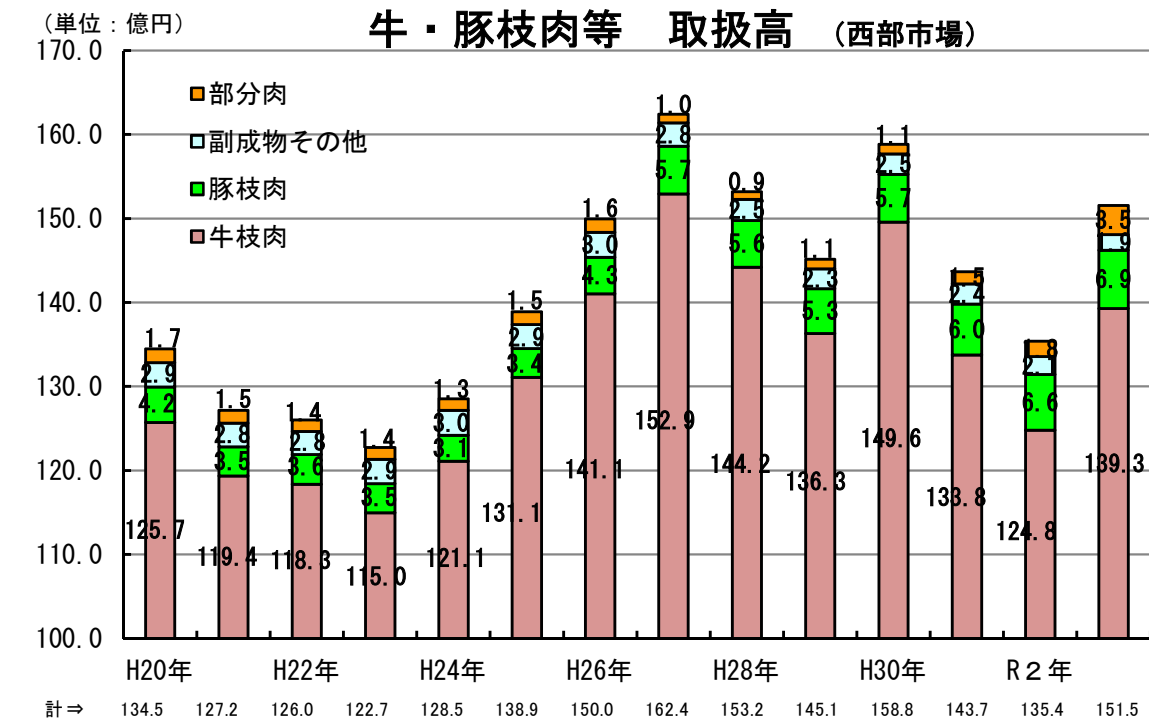
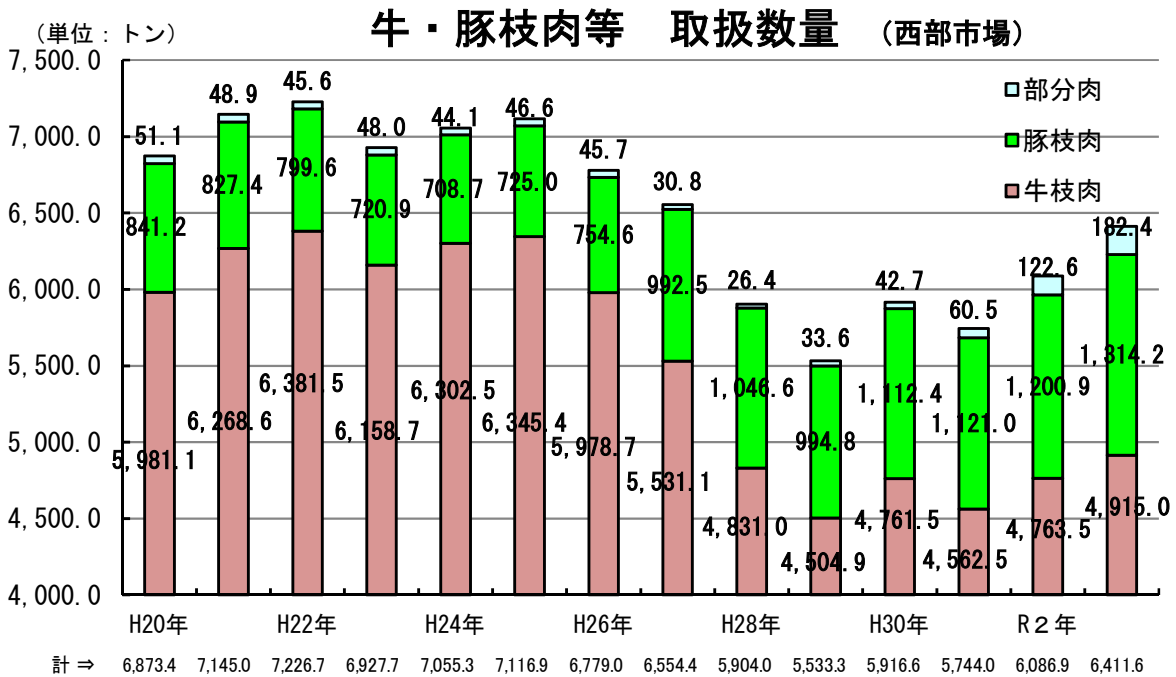
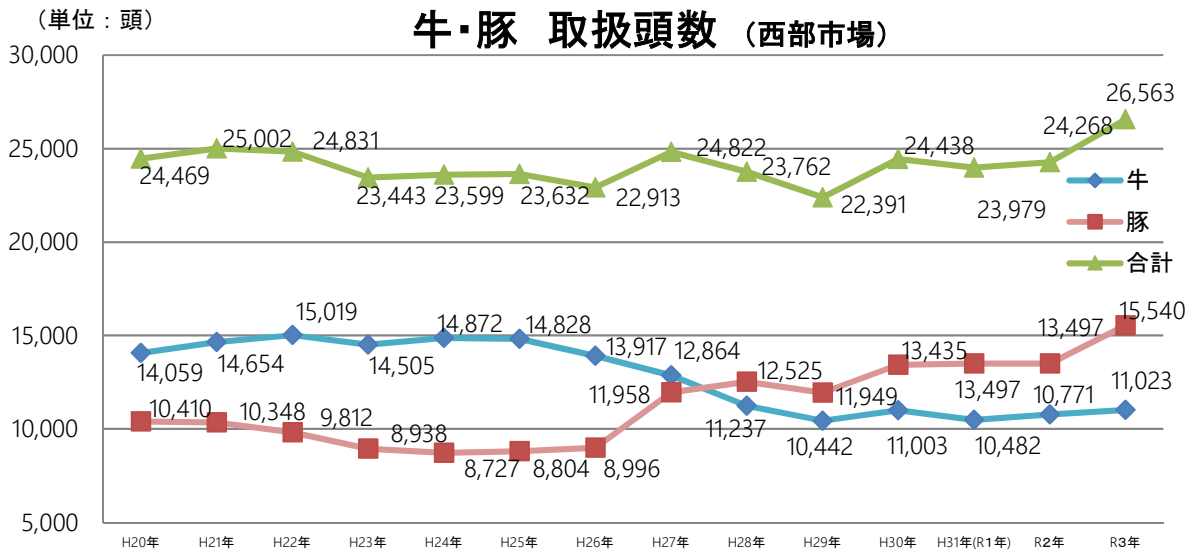


# 水産物 取扱金額（暦年）

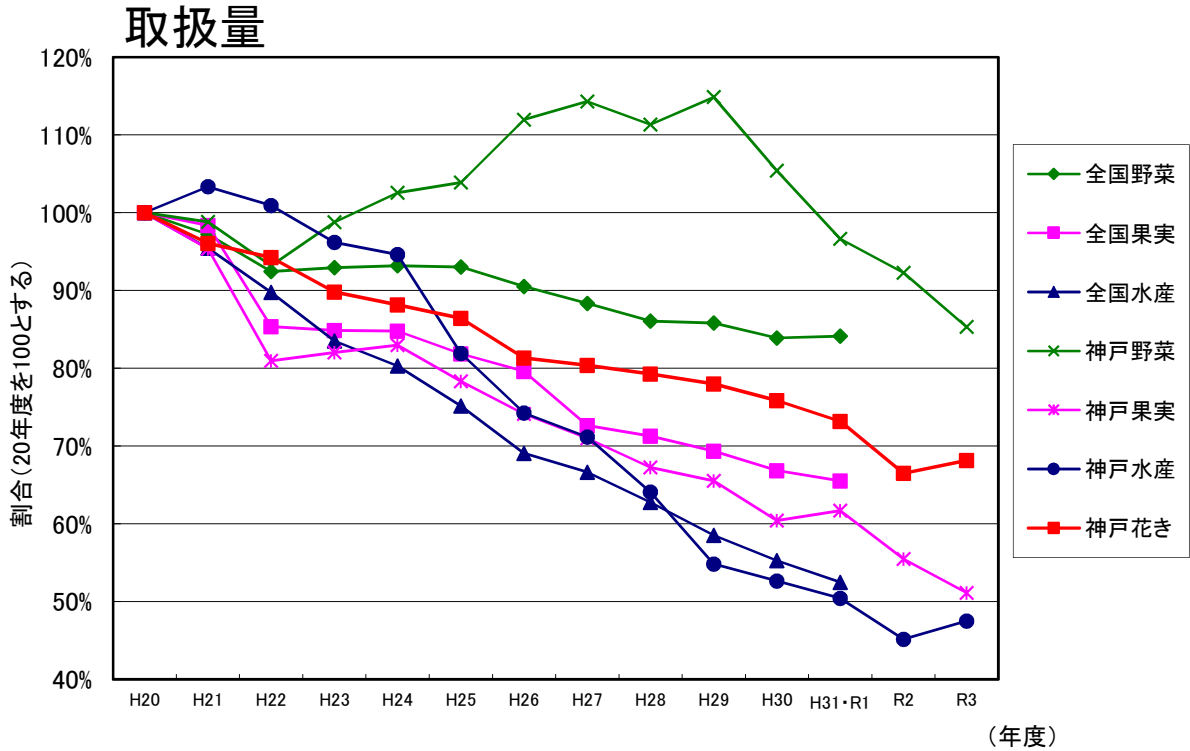
## （本場+東部市場）

取扱金額  
（単位：億円）

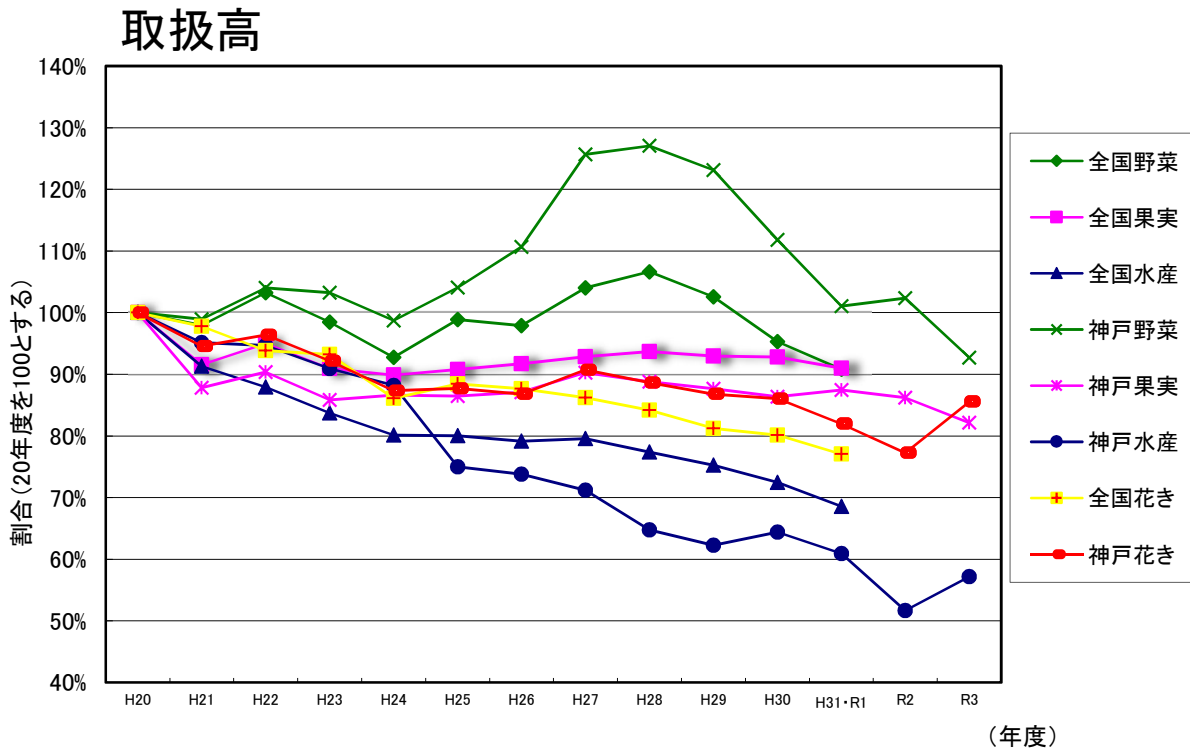




# 全国－神戸市(中央卸売市場)の比較 (青果・水産・花き)



- ※ 「全国花き」の取扱量は、データが無いため未掲載である。
- ※ 全国の数値は、全国の中央卸売市場の取り扱い合計であり、令和2年度以降の数値は、データが発表されていないため未掲載である。
- ※ 神戸の数値は、神戸本場・東部市場の取り扱い合計である。

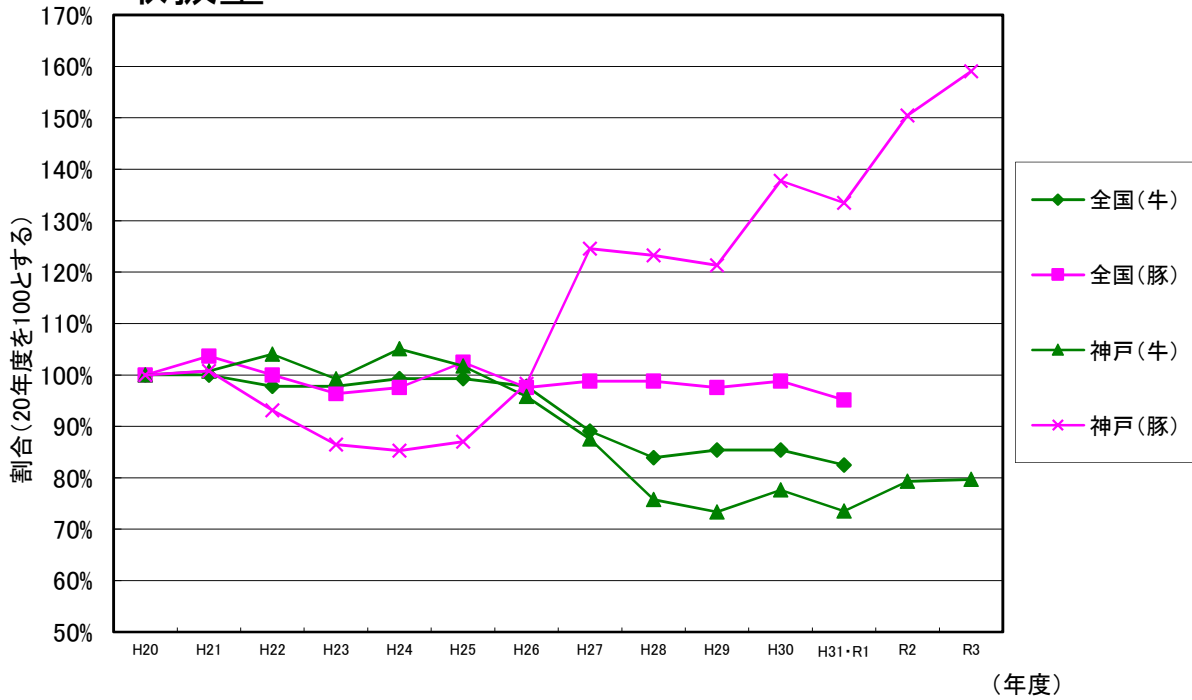


- ※ 全国の数値は、全国の中央卸売市場の取り扱い合計であり、令和2年度以降の数値は、データが発表されていないため未掲載である。
- ※ 神戸の数値は、神戸本場・東部市場の取り扱い合計である。



# 全国－神戸市(中央卸売市場)の比較 (食肉)

## 取扱量



※ 全国の数値は、全国の中央卸売市場の取り扱い合計である。  
令和2年度以降の数値は、データが発表されていないため未掲載である。

## 取扱高



※ 全国の数値は、全国の中央卸売市場の取り扱い合計である。  
令和2年度以降の数値は、データが発表されていないため未掲載である。



# 流通実態調査について

## 1 流通実態調査の目的

神戸市中央卸売市場（本場及び東部市場）の有する生鮮食料品の集散機能のうち、日常業務においては把握できない「分散機能」について、また供給圏、搬出量及び販売方法等についても調査することで、生鮮食料品の安定的流通についての基礎的資料を得るとともに、販路開拓等の資料として場内へ提供することで市場活性化の一助とすることを目的とする。

また、今回においては、卸売市場法の改正に伴う市場取引への影響についても目的の一つとなっている。

## 2 調査実施日

令和3年10月15日（金）

過去の調査と同様に、10月の平均的な取扱高を調査できる金曜日とした。

前回実施日：平成30年10月19日（金）

## 3 調査対象者

卸売業者 及び 仲卸業者（花きを除く）

	本 場					東 部 市 場					
	水産物		青果物			計	水産物		青果物		計
	生鮮	加工	野菜	果実	生鮮		加工	野菜	果実		
卸売業者	3		1			4	2		1		3
仲卸業者	18	10	23	12	63	12	8	19	11	50	

※令和3年8月末時点の数値

## 4 調査の方法

調査対象者に調査票を配布し、調査実施日に取引のあった事業者ごとに調査票に記入をお願いした。

## 5 調査項目

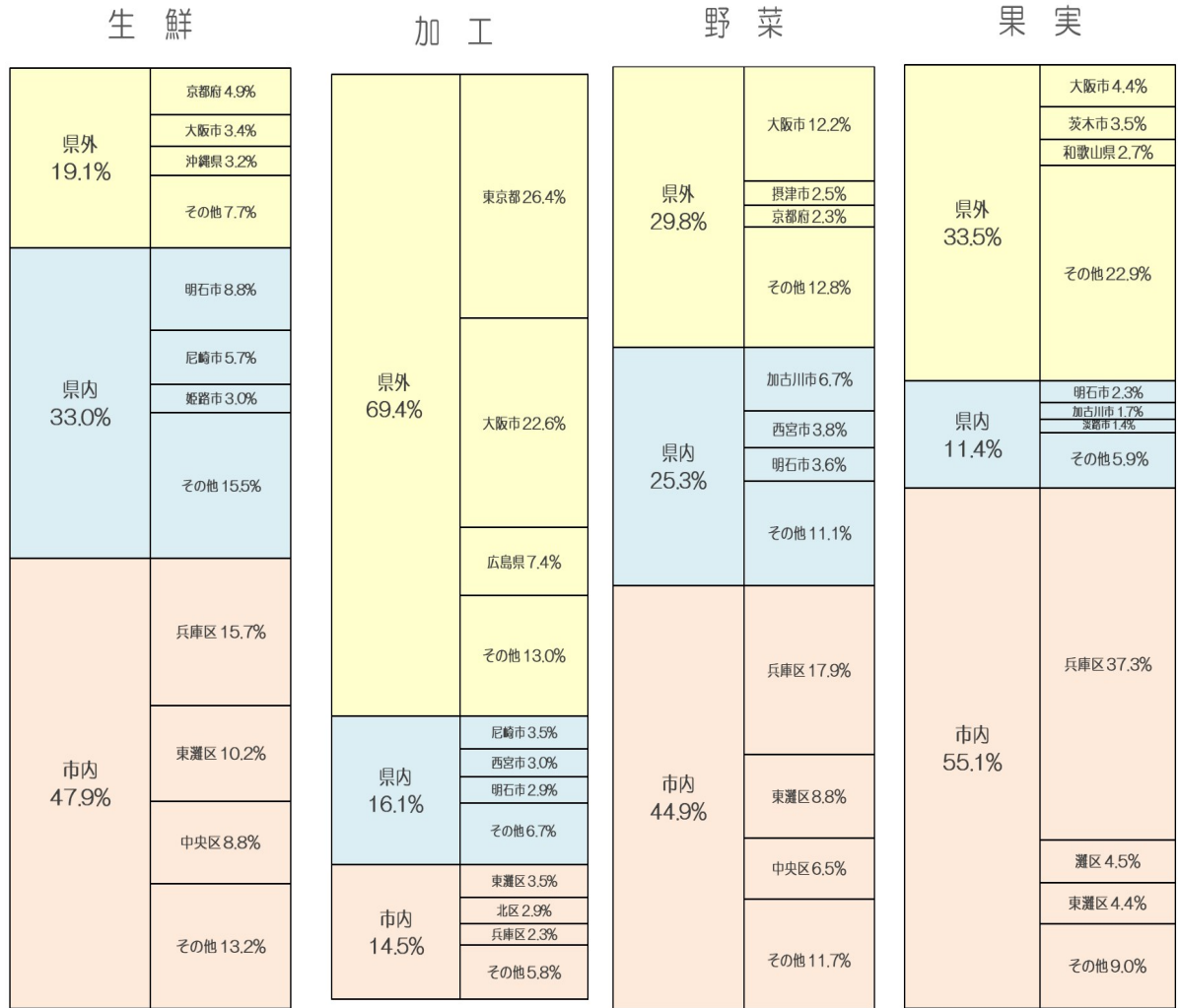
- ・販売先の業態
- ・販売先の営業所所在地（区別・市郡別・都道府県別）
- ・販売方法の種別（注文受付）
- ・販売物品の搬出方法
- ・販売物品の数量・金額・加工の有無

## 6 調査結果

各事業者からの調査票の提出枚数合計：3, 511枚

【地域別搬出量割合グラフ】

令和3年度



<参考：前回 平成30年度>

